



六中だより

文京区立第六中学校 校長 小椋 孝

<http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/dairoku-jh/>

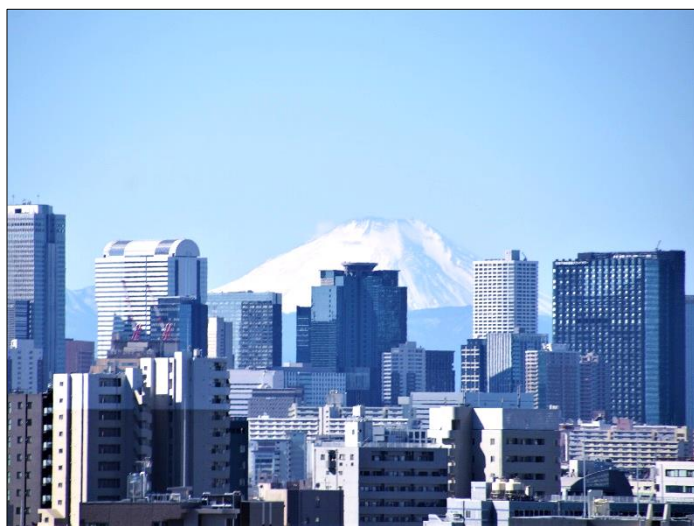
【教育目標】 ○責任を重んじる ○学習に励む ○健康なからだをつくる ○美しい生活を求める

学年末考査「1週間前」 自分の力を十分発揮できるように準備しよう

2月22日（月）と24日（水）の2日間、今年度の学習の集大成となる学年末考査があります。本日は、定期考査1週間前を迎え、従来であれば部活動も中止となって学習に全力を注ぎ込む時期となります。今年度は、緊急事態宣言の影響で1月から部活動が中止となっていますので、今まで以上に準備期間は長く取ることができていると思います。定期考査終了後に控える課題の提出が大変だという声を聞きますが、考査の学習と関連付けて計画的、効率的に進めるようにしましょう。

定期考査の準備において、よく睡眠時間を削って勉強するという話を聞きますが、スポーツの世界には「身体の機能は適度に使うと発達し、使わなければ委縮し、過度に使用えば障害をおこす」という有名な「ルーの法則」というものがあります。これを受けて、体づくりをする上では「トレーニング」「食事」「休養」が特に重要な三大要素とされています。このことは、学習に向かう姿勢についても同じだと言えます。もちろん、学習にしっかりと取り組むことが大前提となりますが、どれか一つに偏ることなく、バランスよく取り組むことを考えたいものです。

なお、3年生にとっては、中学校生活最後の定期考査です。上級学校入学のための試験もまだ続くところですが、こちらの方にも全力を尽くすようにしてください。以前、ある高等学校の先生から、受験の際に提出した1・2学期の「内申書」の成績より、入学時に持参する第3学年総合の成績が上回っていると「最後まで頑張った」と頼もしく感じるという話を聞きました。逆に下がっていると、少し心配になるそうです。出席日数についても同じことが言えます。六中生としての締めくりとなる卒業を迎えるまでの学校生活に全力を傾け、新たな世界へのスタートに弾みを付けられるようにしたいものです。この意味では、いよいよ最高学年を迎える2年生、そして中堅学年として上と下を支え、つなぐ存在となる1年生にも同じことが言えます。定期考査をはじめとした残りの学校生活を前向きにとらえ、自分にとって最善を尽くす機会とできるように頑張ってもらいたいと思っています。



六中から、ビル群の彼方に「富士山」を望むことができます

校庭・道路側の緑色のシェードが新しくなりました

教育委員会が、校庭の国道側のネットに備え付けてある緑色のシェードを新しく張り替えてくれました。今までは、かぎ裂きなどがありましたが、用務主事さんたちが根気強く同色のガムテープで補修してくれて使用していたものです。保健体育の時間や昼休み、部活動で校庭を利用する際には、ぜひ大切に扱うようにしましょう。



生徒全員分のマスクの寄贈を受けました

「小中高校へのエアリズムマスク寄贈のお知らせ」というキャンペーンがあるという情報をPTA役員の方からお寄せいただき、生徒の皆さんの感染症対策の一助になればと申し込みをしたところ、対象校に選出されて生徒全員分のマスクが送られてきました。とてもありがたいことです。本日、一人一人にマスク3枚入りのパックを配布しましたので、ぜひご活用ください。

なお、サイズについては箱単位の指定となっていましたので、勝手ながら男子生徒の分をLサイズ、女子生徒の分をMサイズとして申し込みました。この点についてご了解いただければ幸甚に存じます。



小中高校へのエアリズムマスク 寄贈のお知らせ

ユニクロは、2020年3月より新型コロナウイルス感染症対策への取り組みとして、医療資材の不足に直面する医療機関や介護施設など、日本を含む26の国と地域に、マスク、アイソレーションガウン、ユニクロの機能性肌着エアリズム、インナーやアウターなどのエッセンシャルウェア、金銭的支援などを行ってきました。

再び新型コロナ感染の急拡大が進む今、子どもたちが、感染予防をしながら学び続けることができるよう、「エアリズムマスク」を寄贈いたします。

児童・生徒の学校生活を応援するとともに、日々子どもたちを支える保護者や教職員の皆様の安心にもつながれたいと考えております。

(HPより抜粋)

感染症対策 これからの季節は「花粉症」への備えも

昨年の夏頃には、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザのダブルショックが危惧されるとの報道がありましたが、厚生労働省が発表している「インフルエンザの発生状況」によれば、1月最終週〔1月25日（月）～31日（日）まで〕における感染報告数は、全国64人、東京都5人で、昨年同時期の全国89,436人と比較すると驚くべき少ない数値で、この点においては感染症対策の徹底による効果が表れていると言えます。

これから春に向かう時期には、花粉症に悩まされる人が多くなります。日本気象協会によると、スギ花粉は関東や九州などで少しずつ飛び始めており、東京では3月上旬から下旬にピークを迎えるとのこと。飛散量は、例年より少ない見通しですが、昨年が少なかったために前年比では関東甲信で1.8倍と見込まれているそうです。

新型コロナウイルス感染症との関連では、専門家によれば、「かゆい目や鼻をこすると、手に付いたウイルスが目や鼻の粘膜に触れて感染する恐れがある」「くしゃみがひどくなると、飛沫で人に感染させるリスクが高まる」「各地で換気が徹底されているため、花粉にさらされる頻度が増す」などのことが懸念され、今年是对策を強める必要があると言われています。対策としては、「手指消毒を徹底する」「マスクを二重に着用する」「例年より早めに市販薬や処方薬を服用する」などが挙げられています。心配な人は、早めに医療機関を受診するようにすると良いとされていますので、ご家庭でのご協力をお願い申し上げます。